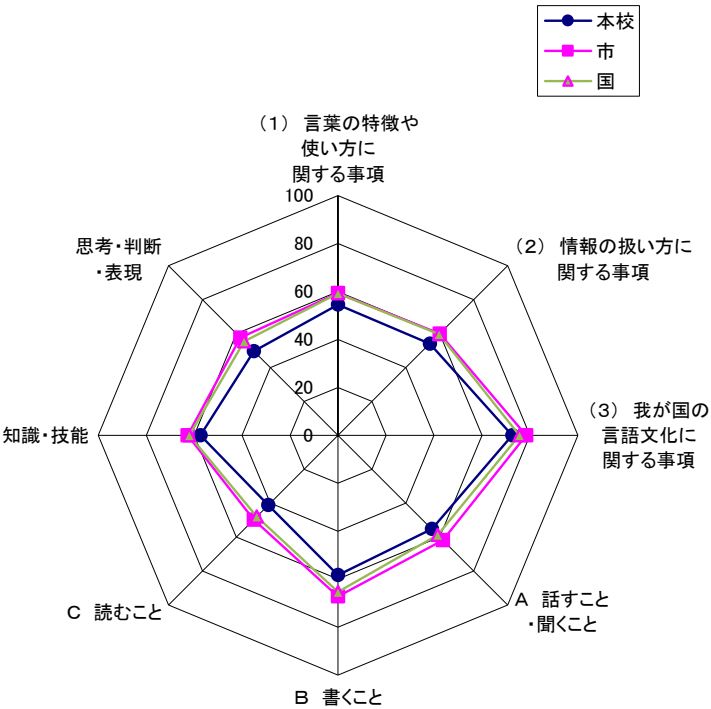


宇都宮市立陽南中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	54.5	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	54.1	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	72.6	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	55.3	61.8	58.8
	B 書くこと	58.3	67.2	65.3
	C 読むこと	41.1	49.7	47.9
観点	知識・技能	57.4	62.7	62.0
	思考・判断・表現	49.7	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

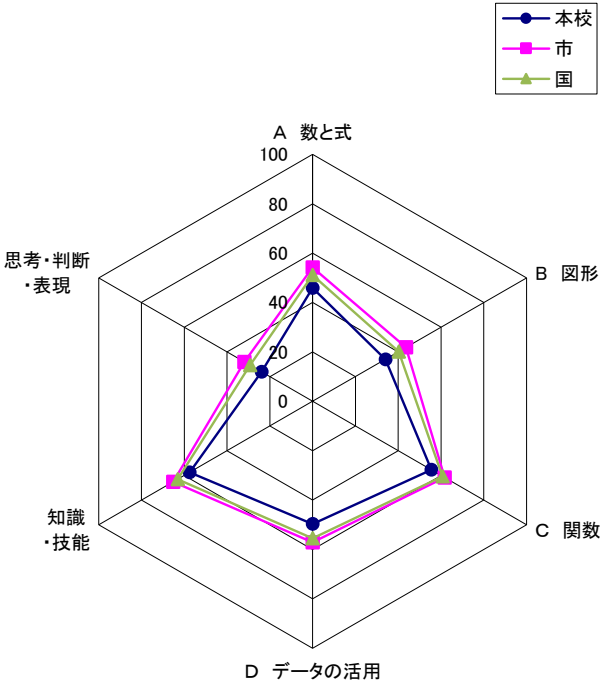
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、全国・県の平均を全て下回っている。 ●文の成分の順序や照応について理解できていない生徒が多いことがわかる。 ●短歌の表現技法について理解できている生徒が少ないことがわかる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・語句の意味を辞書で調べたり、短文を作って語句の正しい使い方を練習することを継続し、語感を磨き、語彙を豊かにさせていきたい。 ・短歌などの文章を作る際に用いる表現技法の基礎・基本を定着させるために、復習と確認テスト等を実施し、繰り返し学習をさせたい。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、全国・県の平均を5%以上下回っている。 ●意見と根拠、具体と抽象など、文章を読んで、情報と情報との関係について理解することができる生徒が少ないことがわかる。	・説明文を読んで、意見と根拠、具体と抽象を読み分ける練習を行う。 ・自分で書く文章においても、意見と根拠を整理し、書く練習を行う。 ・日頃から、読書やニュース記事を読むことを意識させていきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国・県の平均を下回っている。 ●行書の特徴について理解している生徒が少ないことがわかる。	・書写の授業を計画的に行い、書き方とともに、その字の特徴まで学習させたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率が、全国平均よりも上回っている。 ○話し合いの中の発言について説明したものとして、適切な発言を選択することができる。 ○聴き取りのテストにおいて、よく話し合いの内容を聴き取ることができる生徒が多いことがわかる。	・授業にグループワークやペア活動を取り入れ、「話し合い」をする場を多く設けていきたい。 ・授業以外の場でも、他者に話す機会を作り、普段の生活から様々な問題において、自分の意見を持たせるようにしていく。
B 書くこと	平均正答率が、全国・県の平均よりも約10%下回っている。 ●自分の伝えたいことを明確に書くことができていない生徒が多いことがわかる。 ●表現の効果を考えて文章を作る問題において、無回答が20%以上いる。	・単元末テストを返却したあと、記述問題について、解説を丁寧に行いながら、復習する時間を設けたい。 ・表現技法の基礎・基本を、具体例を提示しながら説明していきたい。 ・作文の授業では、個別に添削できる時間を作るよう工夫し、自分の考えやそれを支える根拠を明確に書く練習を行う。
C 読むこと	平均正答率が、全国・県の平均よりも上回っている。 ○短歌に詠まれている情景の時間帯について理解しながら、短歌を詠むことができていない生徒が多いことがわかる。 ●文章全体と部分との関係に注意しながら読み、主張と例示との関係を捉えることができていない生徒が全国・県と比べて多いことがわかる。	・様々な文章、作品に触れる機会を多く設け、表現の工夫の仕方や、構成、主旨や筆者の意見、根拠などを深く理解し、読む練習を行う。 ・作品を読んでから、自分の意見を文章で表現する練習を行う。

宇都宮市立陽南中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	45.9	54.2	51.1
	B 図形	34.0	43.6	40.3
	C 関数	55.5	61.7	60.7
	D データの活用	49.7	57.1	55.5
観点	知識・技能	57.5	65.2	63.1
	思考・判断・表現	23.9	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率が市・国の平均正答率を下回っている。 ○問題場面における考察の対象を明確にとらえ、正負の数の加法の問題では、86%の正答率である。 ●問題を統合的・発展的にとらえ、成り立つ事柄を見出し説明する場面では、無回答率が41%で課題が見られる。	・計算の仕方だけではなく、既習事項をおさえながら多様な計算方法を比較検討することを通して、より効率的に計算できるように支援する。 ・定着度に応じた計算練習として、タブレットやプリントによるドリル的な反復練習を引き続き取り入れていく。 ・数学的な事象を説明する場面では、文字式を使用することによって一般的に説明できることのよさをおさえる。数学的な表現を用いて理由を説明する力をつけるために、問題の意図と共に説明の手順を丁寧に指導していく。
B 図形	平均正答率が市・国の平均正答率を下回っており、他の領域と比べて差が大きい。 ○回転移動での対応する点を選ぶ問題では、無回答率が0.8%で他の問題に比べて低い。 ●三角形の合同証明問題では、正答率が18.6%で昨年度より下回っている。	・PCや具体物を活用したり、自分で作図したりすることを通して、実感をともなう問題をとらえることができるよう配慮する。 ・図形の性質や定理などをおさえる授業の際には、図と条件文を相互に対比させながら色別で表示するなど工夫し、式で表すことに慣れさせる。 ・証明問題では、書くことに対して苦手意識が強いいため、論証の筋道を丁寧に指導する。特に、三段論法を含む場合は、空欄を埋める方式で論証の手順を示すなど工夫する。
C 関数	平均正答率が市・国の平均正答率を下回っているが、他の領域と比べて差が小さい。 ○2つのグラフのY軸との交点が表示するものを選ぶ問題では、正答率が80.6%で無回答率は0.4%であった。 ●式やグラフを用いて問題解決の方法を数学的に説明する問題では、事象に即して解釈することや表現することに課題が見られる。	・問題場面から「式」「表」「グラフ」を関連させてまとめることを繰り返し行い、理解を促す。 ・実生活に関わる題材を取り上げ、2つの数量の関係を表やグラフにより視覚化できることのよさや関数の有用性を実感できるよう指導していく。 ・説明をする場面では、グラフから読み取ることができる情報や式が表示する事柄に着目するよう促し、自分の考えで文章にしたり発表したりできるよう支援する。
D データの活用	平均正答率が市・国の平均正答率を下回っている。 ○複数の集団のデータの分析の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では、県・全国の平均正答率とほぼ同じである。 ●複数の集団のデータの分析から四分位範囲を比較する問題では、県の平均正答率との差が他の問題に比べて一番大きく、データの特徴を捉えるための基本的な知識・技能の定着に課題が見られる。	・簡単な身近なデータの例を用いて、ヒストグラムや箱ひげ図を手作業で作成したり、代表値を求めたりすることを繰り返し行い、用語や基本的なデータの処理の仕方を身に付けられるよう支援する。 ・ヒストグラムや箱ひげ図から情報や特徴を読み取ったり説明したりする力を身に付けさせるために、データを比較する際には、代表値などの根拠となる数を明確にするよう指導する。

宇都宮市立陽南中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「学校に行くのが楽しい」と思いますか。」の肯定的回答が87.4%（県85.2%、全国83.8%）と高い。理由として、「友達関係に満足していますか。」の肯定的回答91.7%（県91.0%、全国90.1%）や、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の肯定的回答95.3%（県93.6%、全国90.4%）等から、生徒同士の関係や、生徒と教師との関係が良好であることに一因があると思われる。

○●「国語の勉強は大切」の肯定的回答が97.2%（県96.0%、全国93.9%）、「国語の授業の内容はよく分かる」の肯定的回答が91.7%（県87.3%、全国82.7%）と高い反面、「自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いている」の肯定的回答が76.8%（県80.7%、全国76.7%）と低く、「今回の国語の記述問題について解答」の無回答の割合が7.1%（県3.2%、全国3.8%）と非常に高い。授業で自分が考えを書く活動や、課題に向き合って粘り強く取り組む学習を続けていく必要がある。

○●数学に関する質問も国語同様で、「数学の勉強は大切」の肯定的回答が93.7%（県88.6%、全国87.2%）、「数学の内容はよく分かる」の肯定的回答が80.7%（県75.8%、全国75.7%）と高い反面、「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」の肯定的回答が40.1%（県46.5%、全国46.0%）と低く、「今回の数学の解答を言葉や数、式を使って説明する問題」の無回答の割合が9.1%（県5.7%、全国6.4%）と非常に高い。授業では、ペアやグループで学び合いの活動を通して、課題に取り組み、様々な考えを伝え合う機会を増やして改善していく。

●「1、2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」の肯定的回答が71.3%（県79.9%、全国75.4%）と低い。特に英語の授業において顕著に表れている。「（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動」の肯定的回答61.1%（県75.4%、全国68.8%）「スピーチやプレゼンテーション活動」の肯定的回答61.4%（県82.9%、全国82.4%）の項目において、県と全国の平均よりも大きく下回っている。現状として、英語に苦手意識をもつ生徒が多い。スモールステップで、自分のことを自分の言葉で伝える活動を授業の中で取り入れ、達成感を味わったり、友達の新たな発見につなげたりするような目的・場面・状況の設定をしていく。

○●家庭学習については、「平日の学習時間」3時間以上が7.5%（県6.7%、全国9.2%）に対し、30分より少ない、全くしない割合が、13.0%（県12.1%、全国17.0%）、「土日の学習時間」4時間以上が5.9%（県5.3%、全国5.7%）に対し、1時間より少ない、全くしない割合が28.3%（県26.7%、36.2%）と二極化している傾向がある。個々に応じた課題を出したり、質問教室の実施をしたりする工夫が有効かと思われる。同様に、「テレビやゲーム」平日4時間以上18.5%（県13.1%、全国16.6%）全くしない16.9%（県12.5%、全国11.2%）、「携帯電話やスマートフォン」平日4時間以上19.7%（県14.4%、全国18.2%）持っていない6.3%（県5.0%、全国3.4%）の使用時間も二極化が見られる。

宇都宮市立陽南中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・生徒の学ぶ意欲の育成や基礎・基本的な習得に努める。 ・家庭学習の充実。 ・系統性のある継続したキャリア教育の取り組みに努める。	・学業指導の理念・宇都宮モデルを踏まえる。 ・タブレット端末を活用しながら生徒一人一人の家庭学習の定着を図るとともに、AIDリルの積極的な運用に努める。 ・「宮・未来キャリアパスポート」の活用。	・家庭学習は、2時間以上の回答が29.5%で、県、全国の平均を下回っている。 ・家庭でのタブレット使用率が、30分以上の回答が30.9%と、県、全国の平均よりも下回っている。 ・話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする生徒の割合が、83.8%で、県、全国の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・家庭学習を充実させるため、家庭でのタブレット使用を促す。 ・学んだことを生かして自分の考えを伝え合う活動を行う。 ・課題に対して考え、思考を深める活動の工夫をする。	・家庭学習でAIDリルの活用や調べ学習を行う。 ・授業を見直し、自分の考えを伝えたり、振り返りでまとめたりする活動を行う。 ・授業の中で、課題に対して自ら考える目的・場面・状況を設定する。	・AIDリルの活用。自主学習ノートの活用。 ・タブレット活用（ジャムボード等）により、意見交換の機会を増やす。 ・対話から学びが深まる授業形態の工夫を行う。